なわて BOOKS 【2021年9月号】

今月から能邨さんに代わり恵文社一乗寺店の藤林さんが、絵本の選書をして下さいます。今月は以下の3冊が届きましたのでご紹介致します。

『おやすみなさい』

文: ヴィルジニー・アラジディ カロリーヌ・ペリシェ 絵: エマニュエル・チュクリエール

訳: カヒミ カリィ 出版社: アノニマ・スタジオ





夜の森で動物たちの親子が眠るようすを描いた絵本です。背景の青はページをめくる度に深みを増していき、そこに白く浮かび上がる月は左から右へと少しずつ移動していきます。**りすや鹿、かえるやきつねの親子の姿は、よく見ると前のページからリレーするように描かれています**。各ページにふくろうがひっそりと登場していますが、ほかの動物たちと違って、目玉をまんまるにひらいているのが少しおかしいです。暗い背景の中に動物たちの姿を見つける楽しさも感じることができます。特色を用いた配色が大変美しく、ビジュアル面でも非常に評価の高い絵本です。

『しんかんせん!』 作: 穂村 弘 絵: 長谷川 朗 出版社: くもん出版





幼いおとこのこが新幹線ではじめての一人旅に向かいます。歌人・穂村弘と新鋭イラストレーター・ 長谷川朗さんのコラボレーションでつくられた作品なのですが、登場する人物やモノはすべて三角 などの幾何学模様単純化された形の組み合わせで描かれ、視覚的に大変新しく、刺激的な一冊です。 はじめはおとこのこの不安な心情を反映して黒い色が多用されていますが、次第に明るくポップな 色調へ変化します。色彩と造形の面白さを知ることができる絵本だと思います。

『いわしくん』 作・絵: 菅原 たくや 出版社: 文化出版局





日本の海で生まれ、捕獲され、店頭に並び、買われて、焼かれて…いわしくんに起こるできごとが、 1ページずつシンプルに描かれています。**いわしくんはついに人間のおとこのこに食べられてしまうのですが…最後のページで表紙のような満足げな表情を見ることができ、ほっとしてしまいます**。 既存のジャンルに当てはめると食育絵本になりますが、「**いのちの連鎖」と「食の喜び」にスポットを当てた、前向きで愉快なおはなし**に仕上げられています。

【なわて BOOKS】

毎月、京都の恵文社一乗寺店さんからなわて幼稚園の図書室に届く、スタッフがお薦めする最 新の絵本や話題の絵本をご紹介しています。

【恵文社一乗寺店】

2010年にイギリスのガーディアン紙が発表した「世界でもっとも素晴らしい書店10選」 に日本から唯一選ばれた京都・一乗寺にある書店。

http://www.keibunsha-books.com/